

さあ、チャレンジしてみよう

Let's try English!

Message FROM
Ben Gibson
Vol.97



My Nakasendo Trip—Part I

This past summer, I had a few months of free time before I started work here in Miyota. I spent part of that time in Taiwan, visiting my brother. When I came back to Japan, I still had lots of spare time and I wanted to travel and see more of this country. However, I did not have much money, and that limited my options.

I am very interested in Japanese culture, and wanted travel somewhere historical. Perhaps I could do the pilgrimage around Shikoku! But it would be expensive to stay at hotels and inns on the way. I also decided that I wanted to make the trip as ecologically gentle as possible. No cars! The trip around Shikoku would take about 3 months on foot. I did not have that much time, so I changed my plans.

After thinking about different trips for a long time, I finally decided on the Nakasendo. It was historical, beautiful, and most importantly, very close! My apartment is about 20 meters from it! But how would I travel? Walking did not appeal to me very much. I would have to take a tent and sleeping bag, and I did not want to carry them on my back the whole 370 kilometers to Kyoto. I decided to go by bike.

However, a regular bike could not hold all my gear. In addition, I wanted to take my time. I wanted to enjoy the trip and slow my life down for a while. So I began searching for a special type of bike. It was difficult though, not many people use the type of bike I want anymore.

I finally found one, in the garbage of a bike shop. The owner was kind, and gave it to me for free, and charged me only for repairs. I painted it, bought a new seat, and prepared for my trip.

I borrowed a small tent, bought a sleeping bag and a water jug, got some maps, and a small book about the Nakasendo. I spent a few hours finding the route, and writing it down on my maps.

Then on one sunny day in July at the beginning of the rainy season, I put my baggage in the baskets, said goodbye to Harold and pedaled down the Nakasendo towards Kyoto...on a tricycle!

To be continued.



私の中仙道旅行 その1

今年の夏、こちら、御代田でお世話になる前、数ヶ月間の自由な時間がありました。

台湾にいる私の弟を訪れ、その時間を過ごしました。日本に戻ってきても、まだ沢山の時間があったので、もっとこの国(日本)を旅行してみたいと思いました。しかしながら、お金もあまりないし、そのことが、もちろん、わたしの行動を制限しました。

私は日本の文化にとっても興味があります。それにどこか歴史的な場所を訪れてみたいと願っていました。たぶん、そのころは信州の周りを巡礼したかったのでしょう。しかし、旅行中に、ホテルや宿に泊まることは費用がかさむことになると考えました。また、私は、生態学的に優しい旅行を可能にしたいと決めたのです。車を使わないこと!

信州をまわるのには徒歩で3ヶ月はかかるでしょう。それには、時間がかかりすぎるるので、その計画は変更することにしました。長いこと上記の計画とは違った旅行を考えて、最終的に中山道をまわることに決めました。中山道は歴史的価値もあり、その美しさ、そしてそれほど遠くでもない!のです。私のアパートから約20mの所に中山道がある!でも、どうやって旅行したらいいのでしょうか?歩いての旅行は、それほど自分の好みに合いませんでした。中山道を通り京都までの370kmを、テントと寝袋を運ぶのに、背負って運ぶことはしなくなりました。そこで、自転車でもまわることにしましたのです。しかし、普通の自転車では私の荷物を全部積めない。更に、私は、マイペースで行きたかった。私には、旅行を楽しんで、しばらく、人生をゆっくりとさせたいという願いもありました。

そこで、私は特別の自転車を探し始めたのです。私が必要としているような自転車はそれほど多くの人が使っていないので、探すのには苦労しました。やっとのことで自転車屋のゴミの中にその自転車を捜したのです。店の主人はとても親切で、修理費を請求されただけで、ただでその自転車をくれたのです。私は色を塗り、新しいサドルを買い、旅行に備えました。小さなテントを借り、寝袋と水筒を買い、中山道の地図と小さめの本を購入しました。道を捜すのに数時間かけ、地図に書き込みました。

そして、7月の始め、梅雨が始まった頃のある温かい日に、自転車のかごにバッグを積みハロルドにさよならを告げ、京都へ続く中仙道をペダルをこぎ出しました...三輪車で。続く

そして、7月の始め、梅雨が始まった頃のある温かい日に、自転車のかごにバッグを積みハロルドにさよならを告げ、京都へ続く中仙道をペダルをこぎ出しました...三輪車で。続く

短歌

短歌・俳句で綴る御代田の四季

「短歌の会」と「御代田風の道俳句会」から寄せられた代表作品です。

離り住む孫に送らな米・野菜 中に入れやる栗おこわをも 土屋 昭子

脱穀を終へたる田畦に腰おろし夫と見上ぐる秋の青空 大井 藤子

夕日射し林一瞬火を放つ幹に絡まる紅燃えの蕨 桑原アヤ子

俳句

高峰吟行

落葉松の鉾立ててをる峰もみぢ 大高 霧海

霧襖双眼鏡のある窓辺 松浦 靖子

白樺の幹を螺旋に寫紅葉 土屋 春雄

行く道は紅葉黄葉の高峰かな 小林阿ぐり

古き世の熔岩原装ふ照紅葉 内堀 隆久

Man Watching

#78

食育について
児童館でもお話しています!

Q1 趣味は?

読書、パン・スイーツ作り、ガーデニング

Q2 おすすめスポットは?

パラダから眺める佐久平

Q3 理想の人は?

強くて心の優しい人

Q4 夢・目標は?

今、信州スローフード協会で、地域の食農育の推進をしています。日本人の食べるべき主食(ごはん)と信州の味噌汁、旬の野菜を食べる事で、地域(家族)の元気(健康)に貢献したいです。

Q5 まちづくりに一言

町の小・中学校に米飯給食をもっと取り入れてください。“キレル”子どもに育てないために...

Sports 町民健康マラソン大会 町民団体マラソン大会

11月12日、町営グラウンドをスタート・ゴール地点に雪窓公園周辺で、第22回町民健康マラソン大会兼第1回町民団体マラソン大会が行われました。昨年までは、町民健康マラソン大会と御代田町浅間駅伝大会の2大会を行っていましたが、交通事情などで今年から1大会の開催となりました。2つの大会を1つにするための検討を重ね、駅伝の要素を、箱根駅伝の予選会のようにチームの合計タイムで競う団体部門を設けて残り、新たに町民団体マラソン大会としました。大会当日は、小学生を中心に262名のランナーが集り、参加選手全員がゴールを目指して頑張りました。22回行われているこの大会ですが、中学、高校、一般の参加者が少ない事がちょっと残念です。日頃ジョキングをしている人、健康のために走ってみようと思っている人、来年の大会参加をお待ちしています。

